

学 校 評 価 一 覧 表 ①

(様式1) 令和7年度 太田市立尾島中学校

羅 針 盤			方 策	自己評価①（令和7年7月）				自己評価②（令和7年12月）			
評価対象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己評価	生徒 %	保護者 %	改 善 策	自己評価	生徒 %	保護者 %	改 善 策
Ⅰ 保護者との連携	1 生徒の活動の様子を保護者や地域に知らせる努力をしている。	○「学校や子供の様子が分かる」と保護者の90%以上が答えている。	○各種通信・便り、尾島中ブログなどの広報活動の充実 ○学級・学年懇談会等の効果的な運営	100 A	85	93	・各種通信などの定期的な発行、並びにHPのブログ・タブレット等による旬な情報発信を継続する。	100 A	83	91	・引き続き、HPやブログ等で学校便りや行事等の様子を配信し、閲覧できるよう情報提供をする。
	2 保護者が学校行事やPTA活動に参加したり協力したりしやすいように努めている。	○学校やPTAの諸活動に保護者の80%以上が年2回以上参加している。	○学校行事等の魅力ある企画とお知らせの工夫 ○全員参加を目指した事業計画と会員相互の参加への誘いかけ（PTA）	100 A	<div></div>	95	・通知の発行は早めを心がけて家庭に周知することで、協力を得る。 ・学校行事に参加しやすいようブログで知らせ、情報発信を工夫する。 ・PTA組織の改編に伴い、専門部の活動も効率化、活性化を図る。	100 A	<div></div>	92	・引き続き、連絡メール等を使い保護者への事前連絡を徹底し、行事開催に向け参加意識、関心が高められるようにする。
	3 保護者が学校に連絡や相談、訪問をしやすいように連携に努めている。	○子供の健康、生活、学習などについて学校に連絡・相談等しやすいと、保護者の90%以上が 答えている。	○教育相談や保健相談の充実 ○三者相談の実施	100 A	<div></div>	91	・日頃から誠実な対応をし、生徒や保護者との良好な関係を構築していく。 ・学校と家庭がより密接な関係になるよう、家庭との情報交換の機会を増やす。（家庭訪問、教育相談、生徒とのチャンス相談等）	100 A	<div></div>	94	・本校職員の丁寧な対応を強みと考え、継続していく。
Ⅱ 確かな学力	4 「分かる授業」を目指し指導法を工夫したり、個に応じた学習指導を実践したりして、生徒の学習意欲や学力の向上を図っている。	○「授業が分かる」「授業が楽しい」と生徒の80%以上が答えている。	○「尾中型学びのスパイラル」を意識した授業づくり ○教員の授業力向上のための校内研修 ○生徒の主体的な学びのための授業改善の工夫	100 A	85	82	・校内研修を通して教員の授業改善を推進し、「～させる」授業から「～したい」授業づくりに努める。 ・授業始めに必ず既習事項の確認をし、学習の仕方がわからない低位の生徒のサポートができる時間、場を設定していく。	92 B	87	75	・「主体的・対話的で深い学び」と「学力の定着」を両立させられるよう、組織的に取り組んでいく。 ・校内研修を通して「個別最適な学び」を意識した授業改善を推進していく。
	5 タブレット端末を効果的に活用した授業づくりに取り組んでいる。	○授業中タブレット端末等を使って学習を進めていると、生徒の80%以上が答えている。	○教員のICT活用力向上のための校内研修 ○効果的にICTを活用した授業の工夫 ○タブレット端末を活用して行う課題の工夫 ○問題解決型の学習活動の工夫	94 A	89	<div></div>	・タブレット端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化の実現を目指し、校内研修を一層充実していく。 ・教員間で授業中の実践の場を示し互いに参観し合い、教員のICT活用能力の向上を図る。 ・計画的にタブレット端末を活用した授業を展開するよう、年間指導計画を見直しする。	100 A	87	<div></div>	・タブレット端末の活用については、教員によって差が見られる。授業を見せ合ったり活用事例を学び合ったりしながら、活用法の構築をしていく。 ・引き続き、計画的にタブレット端末を活用した授業を展開するよう、次年度の年間指導計画を見直しする。
	6 自主的な学習習慣を生徒に身に付けている。	○家庭学習または読書に進んで取り組んでいると、生徒の80%以上が答えている。	○家庭学習習慣づくりの指導 ○「学習の手引」の活用 ○課題未提出生徒への補習	76 B	62	60	・「学習の手引」を活かしながら、家庭学習習慣が図られる課題の出し方を、各教科部会で工夫する。 ・定期テスト前や長期休業中に補修学習を行い、家庭学習習慣の個別指導等の支援を行う。	67 B	68	62	・「学力の定着」には家庭での自主学習は不可欠である。今後も「学習の手引き」の活用の推進と個別指導を行っていく。 ・各教科等で意識的に自主学習に取り組めるような家庭学習を設定し家庭学習習慣の確立を図る。
Ⅲ 豊かな心の育成	7 いじめのない温かい人間関係を育てている。	○「先生は悩みやいじめの解消に努めている」と生徒の90%以上が答えている。	○いじめ撲滅運動 ○Q-U検査等を活用した学級づくりの強化	95 A	92	94	・教員・生徒・保護者が連携を図り、全校をあげた「いじめ撲滅運動」の推進をする。 ・生活ノートやアンケート等の活用日常会話の機会を活かし、いじめ、悩みの早期発見に努める。	92 A	94	93	・S2アンケートの結果を有効に活用していく。要支援の生徒に対する個別支援を、合理的配慮等に留意しながら強化していく。
	8 生徒は進んであいさつし、時と場に合った適切な言動をとっている。	○生徒の90%以上が進んであいさつをしたり、時と場に合った言葉遣いができている。	○生徒会による「あいさつ運動」の推進 ○学校支援センター等、他団体との連携	94 A	96	93	・「あいさつ環境」を生活の重点テーマとして、生徒会による「あいさつ運動」の活性化を図る。 ・更正保護女性会とも連携して「あいさつ運動」の充実を図る。	92 A	96	96	・小学校との連携は継続し、他団体との協力も検討していく。 ・日常から挨拶や適切な言葉遣いが行われたときは称賛し、必要に応じ丁寧に指導していく。
	9 生徒は進んで心を磨く活動やボランティアに参加している。	○生徒の80%以上が清掃やボランティア活動に進んで取り組んでいる。	○学活や道徳の時間での指導 ○率先垂範を意識した清掃の指導 ○校内ボランティアの機会の充実	88 B	76	85	・校内掲示を工夫して、環境美化やSDGsを啓発する。 ・保護者と連携したボランティア活動（親子資源回収）を推進する。 ・意図的に校内ボランティアの機会を設ける。	67 B	77	87	・他団体とも連携し、ボランティアの機会を増やしていくことを検討していく。 ・ボランティア主任を中心に、意図的にボランティアの機会を設定していく。

Ⅳ 健康・体力づくり	10生徒は基本的な生活習慣を身に付け、健康の保持・増進に努めている。	○生徒の８０％以上が１日６～８時間の睡眠時間や朝食をとっている。	○保健室だより・給食だよりと連携した指導 ○健康管理等に関する学級指導の充実	88 A	92	93	・生徒が健康な生活を送れるよう校内保健委員会の活動を活性化する。 ・心の健康に重点を置いた教育相談や学級指導の充実を図る。	75 B	92	94	・生徒が健康についての自己管理意識の改善を図れるよう、教員が手立てを工夫していく。
	11生徒は日常生活の中で運動に親しみ体力や技術の向上に努めたり運動を楽しんだりして体力の保持増進に努めている。	○生徒の８０％以上が運動（体育、部活動を含む）や地域のスポーツ活動に取り組んでいる。	○部活動を始めとし、生徒が主体的に運動ができる環境整備の充実	100 A	85	81	・通信やブログ等で生徒の活躍を保護者に発信し、生徒が主体的に取り組んでいる様子を理解してもらう。 ・運動場、体育館等の環境整備に努め、生徒の運動への意欲を高める。	92 A	87	82	・部活動の地域移行も考慮し、体育や部活動、行事等で体力強化を図る手立てを実践していく。 ・体育主任を中心に、生徒が主体的に体育や部活動等に取り組みめるよう工夫し、生徒の運動への意欲を高める。
	12学校での部活動は活動方針に基づき行われている。	○生徒や保護者の９０％以上が適正な部活動が行われていると答えている。	○尾島中部活動方針に基づいた適正な運営	100 A	89	92	・部活動方針に則り、望ましい部活動の在り方を全教職員で共有し、生徒や保護者に理解してもらいながら実践していく。	92 B	89	95	・部活動の地域移行と部活動方針を教職員で共通理解し、地域や家庭と連携しながら改善を図っていく。
	13感染症や病気の予防について、生徒の指導や予防対策を適切に行っている。	○生徒の９０％以上が感染症や病気の予防に気をつけていると答えている。	○基本的な感染症対策に基づいた行動の徹底 ○感染症予防の啓発活動	100 A	95	97	・感染症については自らを守るだけでなく、周囲へ広げない意識を醸成する。 ・感染症対策として、教室の過ごし方や手洗い、うがい、消毒等の励行を継続的に呼びかけていく。	95 A	96	93	・感染症防止の観点から、生徒や家庭への意識や取り組みを周知していく。
Ⅴ 施設・設備の安全確保	14施設・設備の安全管理や危機管理の徹底を図っている。	○学校は安全点検を月１回以上、安全に関する訓練を年２回以上実施している。	○施設・設備の安全点検の励行 ○避難訓練の実施 ○施設・設備の計画的な修繕	95 A	90	97	・毎月の安全点検結果による早急な修繕を図る。 ・避難経路や方法を生徒が臨機応変に対応できるよう、常時呼びかけをしていく。	100 A	94	98	・事故〇を目指し、点検や修繕を的確に行う。
	15交通事故や通学路の危険箇所、不審者への対策を十分にとり、登下校の安全対策に努めている。	○生徒の９０％以上が交通ルールやマナーを守り、交通事故や不審者に注意して安全に登下校している。	○事例を挙げた交通安全指導 ○自転車の乗り方の実地指導 ○通学路の危険箇所の確認 ○青少推と連携した青色回転灯パトロールの実施	100 A	98	94	・交通安全教室を核として自転車の乗り方指導や交通ルールの徹底を図る。 ・安全主任から定期的に交通安全の全校指導を行う。 ・他団体と連携して定期的なパトロールを実施する。	100 A	97	93	・交通事故〇を目指し、指導や訓練、パトロールを適宜実施していく。特に、一時停止の実施、並列走行の禁止については徹底して指導する。
	16学校は生徒の動向をしっかりと把握している。	○欠席・遅刻の連絡は保護者の９０％以上が、早退・ケガなどの連絡は１００％の教職員が行っている。	○欠席・遅刻の連絡の徹底 ○早退・ケガの連絡の徹底	95 A	97	97	・保護者との連携をより進め、信頼関係を構築する。 ・生徒のケガや体調不良に対し、的確な初期対応に努める。 ・欠席や遅刻をするときは必ず学校に連絡するよう生徒に呼びかける	100 A	97	98	・今後も欠席連絡フォーム等を使い、保護者との連携を図る。
Ⅵ 進路・生き方指導	17生徒が自己の生き方や将来について考えられるよう、進路についての学習や指導態勢を工夫・改善している。	○学校の進路学習や体験活動等を通して自己の生き方や将来のことを８０％以上の生徒が考えるようになってきている。	○３年間を見通したキャリア教育の充実 ○社会人講話夢授業の実施。	100 B	81	79	・授業で生徒が自己の生き方や将来について考えたことを、ブログ等で情報発信していく。 ・学校で行っているキャリア教育等を積極的に保護者に知らせる。 ・事前準備に重点を置いて計画し、上級学校調べを充実させる。	92 A	84	82	・今後も生徒が将来の夢や目標を持てるように、「夢授業」等の実践をとおして、キャリア教育をすすめていく。
	18生徒が将来の夢や希望をもてるよう、キャリア教育や進路情報をもとに親子で話し合えるような機会を設けている。	○将来の夢や希望する進路について、生徒の８０％以上が親子で話し合っていると答えている。	○三者相談 ○学年懇談会、進路学習会 ○進路だよりの発行	100 B	69	86	・夢を持つ意義について親子で話し合えるよう、プリントなど作成し話し合う機会を設ける。 ・タブレットを活用し、興味ある進学高校等のリンク先につなげて、家庭でも閲覧できるようにする。	92 B	75	90	・家庭や地域との連携を深め、本校の特色である「夢授業」を継続していく。 ・三者面談等を活かし、進路について親子で話し合える機会を設ける。
	19生徒や保護者に対して、進路の情報提供に努めている。	○生徒、保護者の８０パーセント以上が学校は将来の夢や進路について考えることが出来るような情報を教えてくれると答えている。	○学年便り、進路だよりの発行と情報の提供	100 A	89	86	・生徒、保護者に確実に読んでもらえるように、学年便りや進路だよりを工夫して作成する。	92 A	94	91	・今後もより理解されるよう、タブレットやブログ等を活用して情報提供を適宜実施していく。
Ⅶ エコ活動	20エコ活動を積極的に行っている。	○教育活動の必要な場面でエコ活動を積極的に推進していると、生徒、保護者ともに９０％以上が答えている。	○ISO委員会等の生徒会を中心としたリサイクル活動の推進 ○エコ活動の啓発 ○ISOの推進	100 A	90	97	・学校内でISO活動を積極的に実践し、エコに対する生徒の意識の高揚を図る。 ・ブログ等で保護者にISOの理念の啓発を図り、使用資源の削減をする。	100 A	91	95	・引き続き環境教育に対する理解を深め具体的な活動を実践していく。

